

わが

挑戦を続ける、新たな杜の都へ 「The Greenest City」 SENDAI

はじめに

仙台市は宮城県の中央部に位置し、仙台藩祖・伊達政宗公の時代から東北地方の中心都市として発展してきました。現在、人口109万人を有しており、東京からは新幹線で1時間半という良好なアクセスも相まって、周辺市町村を含めると約150万人の仙台都市圏を形成しています。



「杜の都 仙台」ケヤキが立ち並ぶ定禅寺通

市の中心部には広瀬川が流れるほか、ケヤキが立ち並ぶ青葉通や定禅寺通など、市中心部にも緑があふれ、美しい自然と都市環境が調和した「杜の都」としても知られています。また、本市およびその近郊には大学、高等



仙台七夕まつり

専門学校、専門学校といった高等教育機関が豊富にあり、若い学生が集まるまち「学都」としても有名です。学生を含む若年層の人口割合も国内トップクラスであり、力強く、活気のあるまちです。本市では、国内外からの多くの観光客を楽しませる多くのイベントが開かれています。「杜の都



SENDAI光のページェント

仙台」が新緑に包まれる5月には山鉦と時代行列が勇ましい「仙台・青葉まつり」が開催されるほか、8月には、豪華絢爛な飾り付けが街を彩る「仙台七夕まつり」が、また、12月には「SENDAI光のページェント」が開催され、温かみのある光が冬の定禅寺通を包みます。

「防災環境都市・仙台」の実現に向けて

平成23年3月、本市に未曾有の被害をもたらした東日本大震災では、国内外から数多くの支援を頂きました。中でも、全国市長会要請などを通じ、各地の自治体から派遣いただいた延べ2万8000人以上の職員の皆さまに、震災直後の極めて厳しい状況から、多岐にわたる業務を担っていただいたことは、本市が震災からの復興を遂げる大きな原動力となりました。

本市では、東日本大震災の教訓を踏まえ、将来の災害や気候変動リスクなどの脅威にも備えた「しなやかで強靱な都市」に向け、「防災環境都市づくり」を進めています。平成27年3月には「第3回国連防災世界会議」が本市で開催され、2030年までに世界で取り組む防災指針として「仙台防災枠組」が採択されました。この枠組みが折り返しの時期を迎えた、令



次世代放射光施設「ナノテラス」

和5年に、東北大学災害科学国際研究所と連携し、優先行動やグローバルターゲットの進捗状況などに関する中間評価に取り組みました。地方自治体として初となるこの取り組みは、ニューヨークの国連本部でも発表し、国際的にも高い評価を頂きました。未曾有の大震災を経験した都市として、そして「仙台防災枠組」に名前を冠する都市として、今後も世界の防災・減災に貢献してまいります。

新たな「杜の都」の実現に向けて

本市では、令和3年度から「挑戦を続ける、新たな杜の都へ

～「The Greenest City」 SENDAI～」を理念に掲げ、まちづくりに取り組んでいます。本市がこれまで培ってきた都市個性を深化させ、「杜の都」を新たなステージに押し上げ、世界に誇れる場所として未来に引き継ぐためのさまざまな取り組みを進めています。

その一例として、「せんだい都市再構築プロジェクト」をご紹介します。このプロジェクトは、都心の老朽化建築物の更新を契機に、高機能なオフィスを供給し、企業の誘致・集積を図ることで域内への投資を促進するためのプロジェクトです。本市の特徴である、集積する都市機能や首都圏との近さ、学都仙台の知的資源を生かし、都心部の建て替え促進や企業立地に対する助成、高機能オフィス整備における容積率緩和などを実施することで、人材や投資を引き寄せ、新たな開発との連鎖による持続可能な経済成長を目指しています。

また、本市は脱炭素先行地域にも選定されており、「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指し、市民、事業者の皆さまと一体となった取り組みも進めています。例えば、飲食店やオフィスなどの既築ビルが立ち並ぶ市中心部の定禅寺通では、業務や営業への影響を最小限にとどめながらZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）改修を行う「使いながらZEB改修」を行い、全国的にも課題となっている中小規模の

雑居ビルの脱炭素化を推進してまいります。

おわりに

東北地方は少子高齢化や人口減少が進んでいるために、よく課題先進地域という表現をされます。しかし、違う角度から見れば、よい良い社会の実現に向けた、変革のきっかけにあふれる地域とも言えます。本市は、東北のゲートウェイとしての役割も担っており、本市の持続的発展は、東北全

体の活性化にも寄与するものと考えています。

課題が複雑化・多様化する中にもあっても、本市が魅力あふれる都市であり続けるためには、地方都市としての視点を超えて世界の流れを意識し、「国際都市・仙台」の視点からまちづくりを進めることが不可欠です。本市に関わる全ての人々が輝き、笑顔と活力あふれる「The Greenest City」 SENDAIの実現に向けて今後も挑戦を続けてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 786・35 km²
- ◆ 人口 106万1450人
- ◆ 世帯数 54万3001世帯

〔将来都市像〕 挑戦を続ける、新たな杜の都へ～「The Greenest City」 SENDAI～

〔まちの特徴〕 自然豊かな環境と都市が調和した、「杜の都」

〔特産品〕 仙台平、玉虫塗、仙台筆筒、



仙台市長 郡 和子



こけし、仙台味噌、牛たん焼、笹かまぼこ、ずんだ餅

〔観光〕 仙台城跡、大崎八幡宮、瑞鳳殿、作並・秋保温泉、泉ヶ岳

〔イベント〕 仙台・青葉まつり、仙台七夕まつり、SENDAI光のページェント、定禅寺ストリートジャズフェスティバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

森林文化に つつまれたまち 沼田市

沼田市は北関東の雄都として発展してまいりました。平成17年2月、沼田市、白沢村、利根村で合併し、利根沼田地域における行政、医療、教育、商業の中心的役割を果たしています。

豊かな自然に育まれた大地

中心市街地は利根川とその支流である片品川、薄根川によって形

成された上位段丘面上に広がり、段丘崖に残された林と段丘面



沼田市街地と雲海



玉原高原のブナ林

に広がる町並みや田畑のコントラストが日本一美しいと言われる河岸段丘を際立たせています。条件が整った朝には、雲の中に浮かび上がる「天空の城下町」を見ることができます。

市域西側は沼田盆地、東側は日本百名山の一つ皇海山を擁する山間です。年間を通じ晴天が多く、一日の寒暖差が大きいため、糖度が高く品質の良い野菜や果物の産地となっています。北部にある玉原高原には国内有数のブナ林があります。

歴史と伝統のまち

「沼田」の名称は、「涓田」郷と記された平安中期の「倭名類聚抄」にまでさかのぼれます。旧石器時代の遺物も発見されており、古くからの人の営みが確認されており

ます。戦国時代以前から沼田氏が治め、その後、交通や軍事的な要衝として上杉、北条、武田などの有力武将が熾烈な所領争奪戦を繰り広げ、戦国時代末期から江戸時代初期にかけて沼田領を治めたのは真田氏でした。

5層の天守を誇ったといわれる沼田城は、真田信直（信利）の時代、改易されて破城となり、本多氏、黒田氏、土岐氏が入封後も、城が再興されることはありませんでした。沼田城跡はその後、久米民之助翁によって公園として整備され、大正15年に旧沼田町へ寄付、現在は真田氏ゆかりの地として多くの観光客でにぎわっています。

本市の地勢的条件は文化の衝突点として豊かな文化を育みまし。かつて尾瀬沼湖畔から奥会津



旧鈴木家住宅（南郷の曲屋）

に抜ける会津沼田街道が主要な街道の一つでした。市内に現存する旧鈴木家住宅（南郷の曲屋）は、東北地方の民家の特徴を色濃く残し、沼田まつりの前身となった祇園祭は京都から伝えられました。近代には養蚕業の集積地として横浜などと取引が盛んに行われ、木材の町としても栄えてきました。

こころ豊かに暮らし、
しあわせを実感できる
まち 沼田

本市は平成2年「森林文化都市」



撮影ポイントでもある上発知のシダレザクラ



花々が美しい春の沼田公園

を宣言しました。人類の歴史は森と共にありました。日本においても、森は国づくりの礎と考えられており、天皇陛下ご臨席の下、平成10年に全国植樹祭、また、平成22年には、皇太子殿下をお迎えして全国育樹祭が行われました。

本市ならではの自然と、そこで紡がれた歴史と文化、人と自然が真に触れ合い、住む人にとっても、訪れる人にとっても心地のよい、「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち 沼田」を将来像としてまちづくりを進めています。

四季を通じて 楽しめるまち

春、雪解けで水が増した吹割の滝は、新緑と相まって圧巻です。また、沼田公園の御殿

桜、発知のヒガンザクラ、上発知のシダレザクラなど写真愛好家の間で有名です。

夏、「沼田まつり」が開催されます。神社みこしの渡御、女性だけで担ぐ天狗みこし、祭囃子と共に優雅に進む「まんど（山車）」は見応えがあります。

秋、紅葉も見頃となり、観光農園はにぎわいます。秋のリンゴ、ブドウだけでなく、イチゴ、サクランボ、ブルーベリー、桃、ブルーベリー、ネクタリン、柿など、年間を通じて果物狩りを楽しむことができます。

冬、たんばらスキーパークでウィンタースポーツが楽しめます。良質なパウダースノーと首都圏からのアクセスの良さから高い人気を誇ります。また、肌に効能がある泉質で知られる老神温泉は知る人ぞ知る温泉地です。

住んでよし、訪ねてよし 安心・安全なまち

恵まれた気候が本市の豊かな歴史と文化を育みました。いつまでも土地の記憶を残す住みよいまち、訪れたいまちであり続けたいと考えております。

自然は良き教師です。豊かな自然に抱かれ育った子どもたちが、技術を生かして未来を描いてくれるものと確信しております。子育てに安全・安心な環境が大切であり、本市は自然豊かで比較的災害リスクが少なく、安心して子育てができるまちです。

路や新幹線を利用して90分余りの立地や、群馬県内でも特に地震災害リスクが小さいとされ、現在造成を行っている産業団地に対する問い合わせも増えてきています。

本市は、四季を通じて住みよく、自然を楽しめるまちであり、森林文化都市としてこれからも自然との共生をテーマに歴史を紡ぎ続けてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 443.46 km²
- ◆ 人口 4万4047人
- ◆ 世帯数 2万605世帯

〔将来都市像〕「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち 沼田」

〔まちの特徴〕自然や温泉、観光果樹園など、観光資源に恵まれているほか、「天空の城下町 真田の里 沼田」として、歴史のあるまち

〔市町村合併〕平成17年2月、沼田市、白沢村、利根村の1市2村が合併



沼田市長 星野 稔



〔特産品〕はちみつ、地酒、和洋菓子、沼田うきもくなど伝統木工品、ぐんま名月、枝豆

〔観光〕吹割の滝、玉原高原、果物狩り（リンゴ、ブドウなど1年中楽しめる）、老神温泉、道の駅白沢

〔イベント〕沼田まつり、沼田花火大会、上州沼田真田まつり、老神温泉大蛇まつりおよびびっくりひな飾り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

安心できるまち、人が集まる磐田市

スポーツのまちナンバーワン

令和3年7月、東京2020オリンピック卓球混合ダブルス決勝で磐田市出身の水谷隼さんと伊藤美誠選手のペアが日本卓球界史上初の金メダルを獲得し、その瞬間、市役所に集まった市民はもちろん、市内は感動に溢れました。そして令和5年11月、ジュビロ磐田が最終節を勝利で飾り、J1への昇格を見事に勝ち取り、市内は再び歓喜に包まれました。



ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦

このとおり、磐田市は、サッカーJ1のジュビロ磐田やラグビーリーグワンの静岡ブルーレヴズ、などしこりリーグ1部の静岡SSUボニータの活動拠点であるとともに、数

多くのスポーツ資源を有する「スポーツのまち」です。

平成23年度からは、スポーツに関心を持つきっかけづくりと、地元チームへの愛着や将来にわたってふるさとを愛する気持ちを育むことを目的として、市内全小学校5・6年生を対象に「ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦」を実施しています。さらに、令和5年度からは市内全中学校2年生を対象に「静岡ブルーレヴズホストゲーム中学生一斉観戦」を行うなど、恵まれたスポーツ資源を生かした特色ある事業を通じてシビックプライドの醸成を図っています。

また、令和5年には、民間調査会社によるスポーツのまちとして思い浮かぶ全国市町村ランキングでナンバーワンを獲得するとともに

に、2年連続でスポーツ庁の「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を受賞できました。引き続き、するスポーツ、みるスポーツの環境づくりなどを通じて、スポーツの力を活用したまちづくりを進めていきます。

ものづくりのまちとして発展

本市は日本のほぼ中央、静岡県西部の天竜川東岸に広がる地域で、遠州灘に面しています。遺跡や古墳、遠江国分寺跡など歴史遺産が多く存在し、遠江の国府（遠府）と呼ばれていた時期もあり、古くから遠州地域の中心として栄えてきた「歴史が語り継がれているまち」です。

そして、過ごしやすい気候や交通利便性などの好条件にも恵まれ、自動車やバイクを中心とした



ものづくり産業と新産業が集積する地域

輸送用機器や楽器などの製造業が数多く立地する県内有数の「ものづくりのまち」でもあります。さらに、近年は野菜工場や国内最大級のエビの陸上養殖施設、空飛ぶクルマの企業を誘致するなど、次世代産業の育成にも力強く取り組んでいます。

学びの場

「磐田ここからラボ」

令和4年度からは、全世代が学びたいことを学びたいとき



「学び」と「対話」の場を提供する「磐田ここからラボ」



五郎丸さんを招いて高校生が企画した講演会

に「学びたい場所」で学べる「校舎のない学び舎」をコンセプトに「磐田ここからラボ」をスタートしました。

市民向け講演会などを充実させるほか、市民活動団体などの学び、子どもの自由な学び、市内で働く方々の学びを支援し、市民が多様な学びを楽しみ、学びの中で対話を通じて人と人との交流が生まれることを目指してきました。

令和5年度には、市内の高校生が講演会を企画する「高校生ラボ」もスタート。元ラグビー日本代表の五郎丸さんや地元出

身の音楽クリエイターの浦木裕太さんが対話型の講演を行うなど、高校生もまちづくりの担い手として活躍できる土壌をつくりました。また、市民活動団体もそれぞれの特色を生かして、地域づくり・防災・不登校支援などをテーマに講演会を企画し、学びと対話の機会を創出しています。



旧見付学校でかすりの着物を着用して学ぶ子どもたち



CGにより復元した遠江国分寺

「共創」のまちづくりへ

令和6年度の市政運営のテーマは、これまで進めてきた「学びと対話」をベースにした『共創』です。少子高齢化やデジタル社会の進展、激甚化する自然災害など日々変化する環境にシナやかに対応するためには、これまで以上に市民・地域・学校・企業・団体などと連携しながら、新たな価値を共に創り上げることが必要です。また、

『共創』へのステップとして、学びを通して課題に対する知識を「共有」し、知識を土台に對話する中でアイデアや解決策を「共感」することが大切だと感じています。枠にとらわれず、多くの分野で『共創』が進むことを目指していきますが、まずは市の魅力であるスポーツを切り口に、プロスポーツチームや大学、企業、市民など

が参加する「スポーツプラットフォーム」の設置に取り組みむとともに、子どもたちの安心に関する施策、歴史的資産や自然環境の活用、次世代産業の集積、SDGsの推進など多様な分野で皆さんと共に『共創』を推進し、私が目指している「安心できるまち、人が集まる磐田市」の実現に向けて前進していきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 163・45km²
- ◆ 人口 16万6307人
- ◆ 世帯数 7万1283世帯

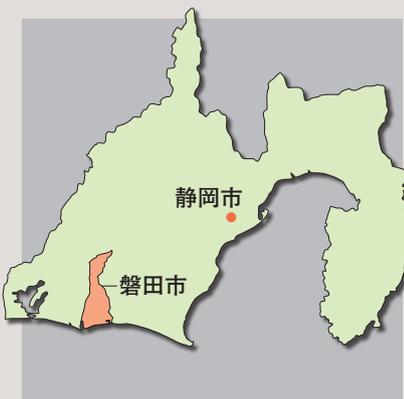
〔将来都市像〕安心できるまち、人が集まる磐田市

〔まちの特徴〕海と山に囲まれ、自然豊かで温暖な地に、いつの時代も多くの人々が暮らし栄える歴史と文化のまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村の5市町村が合併



磐田市長 草野博昭



〔特産品〕エビイモ、いわた茶、メロン、白ネギ、シラス

〔観光〕ヤマハスタジアム、磐田市香りの博物館、福田漁港・渚の交流館、竜洋海洋公園オートキャンプ場、旧見付学校、遠江国分寺跡

〔イベント〕遠州大名行列・舞車、見付天神裸祭、掛塚まつり、国分寺まつり、ジュビロ磐田メモリアルマラソン、みんなで軽トラ市いわた☆駅前菜市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

うるまで出逢う「感動」を「産業」に その意味とは。

「さんごの島の 意味を持つ「うるま」

沖縄県中部東海岸に位置するうるま市は、本年度に誕生20周年、人間でいうとハタチの成人の節目を迎えます。平成17年4月1日、具志川市・石川市・与那城町・勝連町の2市2町が合併し誕生した本市は、その名の



優雅な曲線美が特徴の世界遺産勝連城跡

由来のとおり美しいブルーグラデーションの海に囲まれていますが。そして、沖縄の原風景が色濃く残る島しょ地域の自然や、世界遺産「勝連城跡」に代表される歴史文化遺

産など、美しい景観が広がっています。また、海の上を走る海中道路や、県内随一の人気と規模を誇る闘牛、豊富な食材が堪能できる物産も、誇り高き資源です。さら

には伝統芸能文化も活発で、地元の中高中生で構成する現代版組踊「肝高の阿麻和利」のほか、エイサー発祥の地としても知られ、多彩な魅力に溢れています。

地域を変えた奇跡の舞台 現代版組踊「肝高の阿麻和利」

地元の中高中生のみで演じられる沖縄版ミュージカルとして知られ、沖縄に古くから伝わる伝統芸能「組踊」をベースに、現代音楽とダンスを取り入れ、地域の歴史上の英雄・勝連城10代目城主「阿麻和利」の半生を描いた舞台です。子どもの居場所づくりとして始

まったこの舞台は、2000年の初演以来、沖縄県内外のみならず海外でも公演を重ね、公演数は300回以上を数え、総入場者数は20万人を記録しています。子どもたちに情熱と誇りを与え、地域を変えた「奇跡の舞台」、それが現代版組踊「肝高の阿麻和利」です。

本市に古来より伝わる、肝高き（気高い）心。その精神を引き継いだ子どもたちが演じる舞台、現代版組踊「肝高の阿麻和利」は本市が誇る感動の原点です。

国内初の「感動産業特区」を宣言

「地元の与那中學校から臨む、世界遺産勝連城跡」「地域ごとにとひと味違う、個性豊かな青年エイサー」「まるで格闘技を観ているかのような迫力ある闘牛」など、本市に



まるで格闘技かのような迫力ある闘牛

は「そのものがそのまま」魅力になるような、本来の沖縄が感じられる「文化・伝統・歴史・自然・食・体験」が凝縮されています。しかしながら、これまでその多くの魅力を十分に伝えられていないという課題も同時にありました。そこで、全てに内包される「感動」というものを一つの軸にすることを考えました。本市では、今も息づく肝高き精神が人をつくり、感動をつくり続けています。この自然・史跡・文化・芸能から生まれる「感動」を、市全体で未来と世界に届ける



奇跡の舞台 現代版組踊「肝高の阿麻和利」

ため、令和5年4月「感動産業特区」宣言をいたしました。そして今後の本市のさらなる展開へ向け、現代版組踊「肝高の阿麻和利」を感動産業特区の第1号公式アンバサダーに認定しましたので、彼らと共に、また観光大使HYも一緒に頑張って、本市をより一層盛り上げていきたいと考えています。そこで、まずはスタートアップとして、令和5年8月に東京都文京区にてシティブロモーションイベントを行ったところ、約4000人ものお客さまに会場していただきました。このイベントでは、現

代版組踊「肝高の阿麻和利」の舞台をメインとし、観光PRのためのエイサーアトラクションや生もぐく、山城牛ほか多くの物産もたっぷり味わっていただきうるまの魅力を通して感動をお届けすることができたと実感しています。今後も私たちは多くの人々を感動させる地域であり続け、感動で地域産業を元気にするまちづくりを推進していきます。

私が思う

「真のまちづくり」とは

〃市は、人と人とのコミュニティの最終形態であり、心のよりどころであると考えます。従って、真の協働とは市役所と市民・民間企業の皆さまが一緒になって創ってこそのものだと考えています。本市は県内でも市民所得が低く、経済の自立と発展が大きな課題です。また、近年頻発している自然災害に強い地域コミュニティの形成や行政の体制も強化しなくてはなりません。しかしながら、これらに対応するためのインフラ整備、子育て関係、観光PRなどの施策はそれぞれがツールでしかありません。そこにはエッセンス

となる職員の真心そして想いを込めてこそ、「真のまちづくり」であると考えています。私たちは、多様な市民ニーズに寄り添いながら、市民の皆さま一人一人が本市に愛着と誇りを持てるような施策を実行できる市役所であるため、まずは職員と共に対話を通しながら互いを分かち合い、10年後20年後のうるま市を描いていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 87・02km²
- ◆ 人口 12万6454人
- ◆ 世帯数 5万7507世帯

〔将来都市像〕愛しています 住みよいまち うるま

〔まちの特徴〕海・自然・伝統芸能・文化遺産に囲まれており、住む人々がユニークで、とにかく祭りがにぎわうまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、具志川市、石川市、与那城町、勝連町の2市2町が合併



うるま市長
中村正人



市役所の職員が熱意を持ち、先頭に立って一生懸命施策を立て実行する姿はきつと市民の皆さまに届くと信じています。これからも、最大の協力者である市民の皆さまのご理解を頂きながら、市民の皆さまに「うるま市、大好き！」と想っていただけのような、うるまらしい「まちづくり」を推進していきます。

〔特産品〕ぬちまーす、もずく、黄金イモ、うるまジェラート、泡盛（守禮、暖流、松藤）

〔観光〕世界遺産勝連城跡、果報パンタ、海中道路、うるまシルシエ、シルミチュー（子孫繁栄パワースポット）

〔イベント〕うるま祭り、うるま市エイサーまつり、うるま市産業まつり、あやはし海中ロードレース大会、全島闘牛大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。